

## 日交通の安全 マネージメントキックオフ

二〇一〇年、正月明け早々の一月九日、足立区の西新井ギヤラクシティで日交通さんの「安全マネージメント推進二〇一〇キックオフミーティング」に参加させて頂いた。この団塊耕志録の第十三号（二〇〇九年十一月）で、N A S V Aの安全マネージメントセミナーでお聞きした日交通の飯田専務の講演に感銘した事を書かせて頂いたが、有難いことに、その当の小集団活動の現場であるキックオフのミーティング参加へのご案内を頂いたのだ！興味津々弊社の担当である打田主任と会場にかけつけ



日交通主催のミーティング

たが、百名近いA番の乗務員さんの他に、三十二名もの来賓（見学者）がいたのに驚いてしまう。中には九州から来たタクシー事業者の方もいたとの事。翌日もB番のキックオフミーティングが予定されているという事なので、一体何人の見学者が参加されるのであろう。そしてまたこうした見学者を引き付ける安全マネージメントのキックオフの先進性と、またそうした見学者を受け入れる日交通さんの度量の広さと、一方での自信に驚いた。たとえばわが社で仮に小集団活動ができたとして（残念ながらまだその気配は無いが）、外部の方に果たして公開できる度量と勇気を示せるだろうか？聞けば昨年も見学者に公開しているようだし、また名古屋のつばめグループさんも参加されていたと聞く。またキックオフミーティングは何よりもすでに六回目をむかえ、N A S V Aのベストプラクティスの地位を確立しているからだろうと、一人納得。

## 清野吉光氏のコラム

### 団塊耕志録 第16回

清野 吉光(きよの よしみつ)略歴

1950年 長野県四賀村生まれ、松本深志高校卒業。1968年上智大学外国学部ロシア語科入学、1971年 中退。その後印刷関係など様々な職業に従事。1976年清水市の日の丸交通入社。1980年静岡市内の事務機器センターに入社。1982年システムオリジンを仲間と創業、専務取締役。1992年代表取締役社長就任。2000年株式会社タクシーサイト創立、現取締役会長。2007年タクシーアシスト代表取締役社長に就任。現在に至る。



## 何故 小集団活動？

### ミドルアップダウン

正直、タクシー会社の現場で、こうした「組織された」会議＝小集団活動というものを、自分は見たことが無い。ファシリテータという今風の機能をタクシー乗務員の中から任命された委員が担い、乗務員さんの自主性に依拠しつつ、しかしその自然発生性にまかせずコントロールする。そしてそのファシリテータの役割を委員が果たせるよう班長（そして多分運行管理者、マネージャー）が教育する。結果トップダウンでも、ボトムアップでもない「ミドルアップダウン」が実現していく。しかし言葉でこう書くのは簡単だが、これをタクシーという事業の現場で実現することは、容易ではないと思う。

一体にタクシーの乗務員さんは歩合制などの給与システムもあり、会社に対する帰属意識は薄く、とりわけ東京の様な巨大流し市場では個人の力量に頼るところが多く、組織的な仕事のスタイルに馴染まない。し



会場は出席者でほぼ満席

たがって、ほっておけば、法人タクシーもただの個人事業者の集合体になってしまう。たしかにそれでも良いではないかという意見もあるが、大阪のタクシー業界の現実、さらに世界の多くのタクシーが名義貸しに近い結果、その質の担保において問題が発生している事を思うと、簡単には肯けない。

利用者の為に安全と安心と快適を担保する、それを担う乗務員さんの士気と生活を担保する、そのための小集団活動。個人の利己心だけに依存するモデルではなく、顧客に役立ち、同僚と協力し、組織（会社）に貢献し、目に見えない報酬を得られる職場、職業にタ



クシー事業を育てあげていく。そうした理念と意志を持った経営者が主導する業界に成る事が、今のタクシー業界に求められていることだと思われ、三年間の時限立法である特措法を活用し、その後の交通基本法、道路運送法の目指すべき方向だと思われる。

東京という圧倒的な流し市場で日日交通さんの「乗務員重視の理念と小集団活動」がかくも注目されるのは、こうした所以ではないかと勝手に推測している。

### 討議の現場

話が飛躍してしまったので、再度日日交通さんのキックオフミーティングの現場に

戻ると、九時過ぎから市川社長の迫力ある挨拶と、沢山の乗務員への表彰から始まった。その後、B番の四班がそれぞれ七〜八人づつの三グループにわかれ、昨年に起きた事故の評価や今年の事故件数の目標、評語などについて議論が委員（フアンリテータ）の下に行われ、班長がアドバイスを行い、そして管理者が出された標語をホワイトボードにテーマ毎に分類し、決定していく。日常こうした活動が行われている故なのか、実に手際よく準備され組織されているミーティングであった。まさにミドルアップダウン！伊達に六回（六年）の蓄積がされているわけではないなど、改めて感心する。

### 特別な機会

キックオフミーティングが十二時過ぎに終了した後、来賓（というより見学者）と日日交通の市川社長との、質疑の時間を用意していた。来賓の中には日本交通の川鍋社長もおられ、市川社長と川鍋社長の率直で突っ込んだ議論をお聞きする大変好運な場に居合わせる事

ができて、弊社の営業の打田君と共に興奮したり、喜んだりですっかりミーハー族と化していた。しかしその中で感じた事は、今の厳しい業界の中で個々のタクシー経営者の苦悩の生々しさと東京の業界のある方向性への予感であった。

いづれにしても業界は減車だけでは（これ自体一大難事業だが）問題が解決せず、それ以後の大きな変化が待ち構えている、あるいは逆に大きな変化を起こしていかなければ「産業としての未来」は無いという事だと思う。それがどのような内容、形、プロセスになるかは誰もわからないが、しかし必ず起こるだろうし、また起こそうとしている人達が東京にも、また全国にもいるという事だと思ふ。

「タクシー業界の新しいビジネスモデル創造のお役に立ちたい」と弊社二十周年の「未来への志」として定めたオリジンとしては望むところだし、またそうした「志」に是非お役に立つて行きたいと改めて思った次第…。



加賀市長になった寺前秀一先生

寺前さんが加賀市市長に  
弊社から昨年六月「ユビキタス時代の人流」を出版された寺前秀一先生が、昨年の十月の加賀市市長選で当選され、加賀市長となった。加賀市は山城温泉、山中温泉など加賀温泉郷を擁する観光地で、寺前先生は地元山中温泉出身の縁で囑望され、市長に立候補されたようだ。観光学博士としてノウハウを加賀市の観光行政に活かして頂けると思う。またタクシーのビジネスモデルも、市長としての経験の中で深化して頂けると期待している。  
(二〇一〇年一月二〇日記)

プリンター一体型業務用アルコール測定器  
**ALC-miniⅢ**  
**¥83,000**より

アルコールだけに反応 音声ガイドで簡単操作

コンパクトなボディにプリンタ機能搭載！  
吹き込む・測定する・記録する、の  
カンタン3ステップアルコール測定！



息を吹いて下さい。

2011～2012年にかけて、全ての事業者はアルコール測定器の使用が義務付けられます。  
(事業用自動車総合安全プラン2009)

**義務化**に向けて  
**備えの1台**です！

※表示金額には消費税、保守料等は含まれておりません。

お申し込み  
お問い合わせ

株式会社 システムオリジン Tel.03-3834-8352

関東支店営業本部 〒101-0021 東京都千代田区外神田 5-3-4 田中ビル7F 拠点/北海道・東北・関東・甲信越・東海・名古屋・関西・中国・九州

製造元

東海電子株式会社  
<http://www.tokai-denshi.co.jp>